

評価結果公表票

作成日 平成20年8月7日

【評価実施概要】

事業所番号	272400680
法人名	有限会社ルーツ
事業所名	グループホーム泉の里
所在地	北津軽郡中泊町大字今泉字神山141 (電話) 0173-58-3115
評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成20年3月26日

【情報提供票より】(平成20年2月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年1月21日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤	14人, 非常勤 0人, 常勤換算 6.6人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	特別室のみ20,000 円	その他の経費(月額)	理美容代2,000円~4,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	260 円	昼食	260 円
	夕食	260 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4)利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83.4 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立金木病院、小嶋歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

『「あなたらしさ」、お守りします。これまでの暮らしに敬意を。これからの暮らしに希望を。』というホーム独自の理念を掲げており、申し送り等で職員間の共有を図りながら、日々の様々な場面で利用者らしさが引き出せるようなケアを心がけている。利用者一人ひとりの生活歴や得意なことを把握しており、漬物や郷土料理を作るときは利用者に教えてもらうなど、利用者と職員が助けあいながらホームでの暮らしを送っている。  
 デイサービスが併設されており、利用者同士の交流を図ったり、デイの源泉掛け流し温泉やマッサージの機会を利用するなど、併設のメリットを活かしている。ホームで開催する行事の中には地域と一体となって行われているものもあり、利用者手作りの漬物や団子を出店したり、準備には地元消防団がボランティアとして参加するなど、地域との良好な関係が築かれている。  
 ホーム内にはソファや椅子等の家具のほか、木彫りの置物等が置かれている。また、居室には電化製品や時計、写真等が持ち込まれており、落ち着いて過ごせる空間となっている。

【特に改善が求められる点】

内部研修を定期的実施したり、外部研修受講後は伝達研修を行うなどの取り組みを行っているが、全職員が平均的に研修を受講できるよう、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。  
 全職員で話し合いを行うなど、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めを整備し、全職員に周知することに期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を受けて職員間で話し合いを行っており、改善に向けた取組みにつなげている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者及び職員は評価の意義等を理解しており、全職員で相談しながら自己評価を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、高齢者施設職員や地域包括支援センター職員等が参画している。会議では日々の取組みや評価結果等を報告し、委員との意見交換を活発に行っている。また、会議で出された意見は今後の運営に反映させている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>ホーム便りや担当者による個別の便り、面会時等に暮らしぶりや身体状況、職員の異動等を家族に報告している。また、面会時には声がけし、要望等がないか引き出すよう働きかけている。意見箱を設置したり、ホーム内外の苦情受付窓口を明示するなどの取組みも行っており、意見等が出された時は職員会議で検討し、今後のケアにつなげている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホーム周囲を散歩したり、道の駅や町の行事等に出かけるほか、出張販売を利用するなど、地域と触れ合う機会を積極的にも受けている。また、消防団員が夏祭り等の行事の時にボランティアに来てくれたり、住民の見学を受け入れる等の取組みも行っており、その際は居室入り口にのれんを掛ける等、利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取組み状況
I 理念に基づく運営	<p>法改正時に地域密着型サービスの役割等について学習会を行っており、全職員が理解している。また、理念作成時には地域との関わりや提供したいサービスなどについて話し合いを行っている。</p> <p>全職員が日常的に全利用者と交流を図り、顔馴染みの関係を築くほか、職員の異動は行わないよう配慮している。新しい職員を配置する時などは、職員間の引継ぎを行うとともに利用者への説明を行う等、利用者が混乱しないよう支援している。</p> <p>グループホーム協会に加盟するほか、他のグループホームと相互見学等を行っており、得られた気づきは今後のケアに反映させている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>見学してもらったり自宅を訪問するなど、利用者や家族との面談の機会を設け、一人ひとりの生活状況や意向等を確認している。</p> <p>常に利用者と一緒に行動することを心がけ、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物や郷土料理作りを利用者から教えてもらったり、畑仕事や裁縫等は利用者と一緒にするなど、利用者と職員が助けあいながら暮らしている。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>利用者や家族との関わり、職員間での話し合いを行った上で個別具体的な介護計画を作成している。計画は3ヶ月ごとに見直しを行うほか、状態変化等があった時は随時の見直しを行っており、見直し時には再アセスメントを行っている。</p> <p>利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援したり、協力医療機関を確保したり看護師の資格を持った職員を配置するなど、緊急時などにいつでも対応できる体制を整備している。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>利用者の言動を否定せず、一人ひとりのペースを大切にゆとりをもったケアを提供するよう心がけている。また、献立には利用者の好みを取り入れたり、行事の時は出前をとるほか、隣接しているデイの温泉を利用するなど、楽しみを持ちながら生活できるよう工夫している。</p> <p>年2回、消防署の協力を得ながら、利用者と一緒に昼夜を想定した避難訓練を行ったり、災害時に備えて地域住民に協力員として登録してもらうなどの取組みを行っている。また、食料等の備蓄品や簡易トイレ等も用意している。</p>

# 評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法改正時に字習会を行っており、管理者及び職員は地域密着型サービスの役割を理解している。理念作成にあたり、地域との関わりや提供したいサービスなどについて話し合いを行っており、『「あなたらしさ」、お守りします。これまでの暮らしに敬意を。これからの暮らしに希望を。』というホーム独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やリビングに掲示するほか、毎日の申し送りやカンファレンスで共有を図っており、様々な場面で利用者らしさを引き出すよう心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホーム周囲を散歩したり、道の駅や町の行事等に出かけるほか、出張販売を利用するなど、地域と触れ合う機会を積極的にも受けている。また、消防団員が夏祭り等の行事の時にボランティアに来てくれたり、住民の見学を受け入れる等の取り組みも行っており、その際は居室入り口にのれんを掛ける等、利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者及び職員は評価の意義等を理解しており、全職員で相談しながら自己評価を作成している。また、外部評価の結果を受けて職員間で話し合いを行っており、改善に向けた取り組みにつなげている。		
5	6	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、高齢者施設職員や地域包括支援センター職員等が参画している。会議では日々の取り組みや評価結果等を報告し、委員との意見交換を活発に行っている。また、会議で出された意見は今後の運営に反映させている。		
6	7	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政や地域包括支援センターにホーム便りやパンフレット、評価結果等を持参し、ホームの現状を伝えている。また、運営推進会議には行政担当課や地域包括支援センターの職員が参画しており、ホームの資質向上に向けた話し合いを行うなどの連携を図っている。		
7	8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修やその後の伝達により、職員は地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の概要について理解を深めている。また、制度の利用が必要な方には情報提供を行う体制が整えられている。		
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やその後の伝達研修を通じて全職員が虐待について理解を深めている。また、虐待を未然に防ぐため、管理者が職員のケアの場面等を観察するなどの取り組みを行っている。しかし、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めは作成されていない。	○	全職員で話し合いを行うなど、虐待を発見した場合の対応や報告の流れ等に関する取り決めを作成し、それを全職員に周知することに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書や重要事項説明書を基に利用料等について利用者や家族に説明し、納得してもらった上で契約を結んでいる。また、契約改訂時や退居時にも説明して同意を得ており、退居時には退居先を紹介するなどの支援を行っている。		
10	12	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	写真を掲載したホーム便りや担当者からの手紙、面会時等を通じて暮らしぶりや受診状況、職員の異動等を家族に報告している。また、金銭管理状況は出納帳に記録し、領収書を添付して家族に報告している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には家族が要望等を話しやすいよう声がけなどを行っている。また、ホーム内外の苦情受付窓口を重要事項説明書などに明示するほか、意見箱を設置する等の取り組みも行っている。家族から意見等が出された時は職員会議で話し合い、今後のサービス向上につなげている。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当制をとっているが、全職員が日常的に全利用者と交流を図っており、顔馴染みの関係が築かれている。また、利用者への影響に配慮し、異動はほとんど行われていない。新採用者がいる時はマンツーマンで引継ぎを行うとともに、利用者への説明を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務上の悩みについては地域包括支援センターや他事業所職員等からの助言を受けている。毎月テーマを決めて内部研修を実施したり、外部研修受講後は報告書を基に伝達研修を行うなどの取り組みを行っているが、年間の研修計画を作成するまでには至っていない。	○	全職員が平均的に研修に参加できるよう、これまでの研修傾向や職員の希望等を把握した上で、内部・外部研修の年間計画を作成することに期待したい。
14	18	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟するほか、他グループホームとの相互見学や行事等でのボランティア交流が行われており、得られた気づき等は今後のケアに反映させるよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学してもらったり自宅を訪問するなど、利用者や家族との面談の機会を設け、一人ひとりの生活状況や意向等を確認している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	常に利用者と一緒に行動することを心がけ、一人ひとりの喜怒哀楽を理解するよう努めている。また、漬物や郷土料理作りを利用者から教えてもらったり、畑仕事や裁縫等は利用者と一緒に行うなど、利用者と職員が助けあいながら暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の利用者との関わりや家族からの情報、職員間での話し合いを基に、一人ひとりの意向等を把握するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時には、入居時やアセスメント時、日々の関わりを通して利用者や家族の意向等を把握するとともに、月1回のケア会議等で職員の気づきや意見を聞いており、個別具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の実施期間が明示されており、3ヶ月に1回の見直しを行っている。また、利用者の状態等に変化があった時はその都度の見直しを行っており、見直し時には再アセスメントを行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診時の送迎を行うほか、墓参りや家族も参加した外出に出かけるなど、利用者や家族の要望に柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望する医療機関での受診を支援している。また、協力医療機関を確保したり、看護師の資格を持った職員を配置するなど、いつでも対応してもらえる体制が整備されている。受診結果は家族に報告し、共有を図っている。		
22	44	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のケアには対応していないが、日頃の健康管理や緊急時の対応など、利用者や家族との意思統一を図っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の言動を否定することなく、失禁時等はトイレや居室で対応するなど、個々の羞恥心に配慮した対応を心がけている。また、職員は個人情報保護法を理解しており、個人情報に関する書類は事務室に保管したり、家族の了解を得た上で居室の表札を掲げるなどの対応を行っている。		
24	49	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者一人ひとりのペースを大切に、ゆとりを持ったケアを心がけている。また、その日の体調等にも柔軟に対応している。		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成時は利用者の好き嫌いに配慮したり、日曜日や行事の時は出前を頼むなどの取り組みを行っている。また、利用者の状況に応じて食事の準備を手伝ってもらったり、会話をしながら職員も一緒に食事を摂るなど、食事を楽しめるような配慮が行われている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ホーム浴室のほか隣接しているデイサービスの温泉も利用しており、日曜日以外は毎日入浴することができる。入浴時は長湯にならないようさりげなく見守り等を行っている。また、入浴を拒否する利用者には声かけを工夫する等の対応を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者が得意とすることを一覧表にまとめており、個々に合わせて椎茸作りや野菜作りなどの役割を促すほか、年賀状づくりなどの楽しみごとを支援している。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の希望を聞きながら散歩やドライブ等に出かけるほか、年間計画として遠足を企画するなど、積極的に外出の機会を作っている。外出時はリフト付き車両を使用するなど、車椅子の方でも外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修等を通じて全職員が身体拘束の内容や弊害等について理解を深めており、拘束のないケアを実践している。また、やむを得ず拘束を行わなければならない場合には家族の同意を得るなどの仕組みとなっている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関等に鍵をかけておらず、外出傾向を察知できるよう見守りを行い、察知した時は職員が付きそう等の対応を行っている。また、無断外出時には近隣住民から連絡をもらえる体制となっている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て、利用者と一緒に昼夜を想定した避難訓練を実施している。また、緊急対応マニュアルや夜間連絡網も整備している。災害時に備えて地域住民に協力員として登録してもらったり、食料や簡易トイレ等を用意するなどの取り組みも行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人代表者が栄養士の資格を持っており、カロリーや栄養バランスに配慮された献立となっている。また、食事や水分の摂取量を把握して記録しており、必要に応じて補助食品を提供するなどの対応を行っている。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、新しい情報が入った時などは随時見直しを行っている。また、ケアマネジャーが中心となって勉強会を行い、理解を深めている。感染症に関する情報はホーム便りで家族に提供している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		○居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはソファや椅子等が設置されているほか、観葉植物や季節の花が飾られており、家庭的な雰囲気となっている。また、天窓から入る日射しの強さや職員が立てる物音、テレビ等の音量は適切であり、快適な空間となっている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
35	80	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドやタンスは備え付けとなっているが、電化製品や布団、小物、時計等の馴染みの物が持ちこまれている。また、利用者の作品や写真等が飾られており、一人ひとりの好みに合わせた居室となっている。		

※  は、重点項目。